

第4章

防災教育に関する資料

防災教育に役立つ参考資料

○ 「学校の防災管理の手引き」(平成31年2月作成)

<https://www.pref.nagano.lg.jp/kyoiku/hokenko/hoken/gakkoanzen/bosai kanri.html>



このリーフレットは、学校における災害発生時の対応について、準備や対策、訓練などを時系列に沿ってまとめたものです。事前の安全対策を強く意識し、学校の実情に応じた防災対策の充実を心がけてください。

○ 「令和元年度 学校安全総合支援事業実践報告集」(令和2年2月作成)

<https://www.pref.nagano.lg.jp/kyoiku/hokenko/hoken/gakkoanzen/jissenhokoku.html>



本報告集は、事業実施校の優れた実践を広く県内に紹介し、各校における安全教育の取組を推進する目的で作成しています。日常の授業や特別活動等を通じて、地域や学校の実情に応じた安全教育を実践し、児童生徒の学校安全に対する意識の高揚を図るための参考にしてください。

○ 国土交通省ホームページ 資料紹介

<http://www.mlit.go.jp/river/bousai/education/index.html>



「水災害からの避難訓練ガイドブック」等、国土交通省の最新の取組内容や授業で使用できる教材例や防災教育の事例を防災教育ポータルとしてまとめています。防災意識の向上と対応の実践を学ぶ資料としてご活用ください。

○ 『「生きる力」をはぐくむ学校での安全教育』（平成 31 年 3 月作成）

https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/___icsFiles/afieldfile/2019/04/03/1289314_02.pdf



学習指導要領改訂や「第 2 次学校安全の推進に関する計画」策定などに対応。『「生きる力」をはぐくむ学校での安全教育』の改訂版。

（文部科学省ホームページより）

○ 「学校の危機管理マニュアル作成の手引き」（平成 30 年 2 月作成）

https://www.mext.go.jp/a_menu/kenko/anzen/___icsFiles/afieldfile/2019/05/07/1401870_01.pdf



事件や事故、自然災害への対応に加えて、近年の学校や児童生徒等を取り巻く様々な安全上の課題や「学校事故対応に関する指針」（平成 28 年 3 月）、「第 2 次学校安全の推進に関する計画」（平成 29 年 3 月閣議決定）等を踏まえ、従前の参考資料を基に、「学校の危機管理マニュアル」に基本的な対応方法や留意点等を大幅に追記して改訂を行ったもの。

（文部科学省ホームページより）

○ 信州大学「防災教育と子どもがつくる防災マップ」廣内研究室

<https://gakusyu.shinshu-bousai.jp/>



県内外で「e コミマップ」やタブレットアプリ「フィールドオン」を用いた、「子どもがつくる防災マップ」づくりに取り組む学校の成果などを公開しています。文部科学省委託事業「学校安全総合支援事業」などを活用した成果報告も含まれます。

○ 「過去の災害に学ぶページ」

<https://www.pref.nagano.lg.jp/sabo/manabu/manabu.html>



長野県内の災害と先人たちが様々な対策をしたものの紹介ページです。



(長野県建設部砂防課ホームページより)

○ 「支援者のための災害後のこころのケアハンドブック」

<http://www.cnh.shizuoka.ac.jp/research/barchive/>



県内の小・中・高・特別支援学校に一冊ずつ配付。養護教諭やスクールカウンセラーが活用している冊子です。令和元年の台風第19号の被災時にも使用しました。

○ 気象庁ホームページ 資料紹介

<https://www.jma.go.jp/jma/ki-shou/known/fukukyousai/index.html>

気象庁ホームページには防災教育に関する様々な資料が掲載されています。

<p>eラーニング「大雨の時にどう逃げる」 【気象庁】</p>	<p>ぼうさいまちはいさがし し きけんはっけん! 【日本赤十字社】</p>	<p>学校向け教材・資料</p> <p>学校向け教材・資料 【日本損害保険協会】</p>	<p>絵本「みんな えがいて」 【宮城県】</p>	<p>緊急地震速報って何？ 緊急地震速報って知ってる！？ 【気象庁】</p>
<p>防災紙芝居 【仙台管区気象台】</p>	<p>仕掛け絵本(なんかいしんからいのちを守ろう(1)) 【高知地方気象台】</p>	<p>まもるいのち ひろめるぼうさい 【日本赤十字社】</p>	<p>小学生のぼうさい探検隊マップコンクール 【日本損害保険協会】</p>	<p>文部科学省 × 学校安全 作成資料一覧 【文部科学省】</p>

(気象庁ホームページより)

ぼうさいまちがいさがし きけんはっけん!

解説書



教材概要

本教材は、幼稚園・保育所の子どもたちに、災害時の危険(場所・行動)について伝え、自分の身を守るための基礎的な知識や判断力を身に付けてもらうことを目指した教材です。

学習指導要領、幼稚園教育要領等のうち、以下のような内容を子どもたちに指導することを目的としています。

- ① 危険な場所、災害時などの行動の仕方が分かり、安全に気をつけて行動すること。
- ② 遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになること。

【テーマ】

教材で取り扱うテーマは、下記のとおりです。

テーマ	内 容	解説書 該当ページ
導入 知識 災害について知る <small>(シートA・B)</small>	・災害の種類 ・災害が起こると自分たちの住んでいる町はどうなるのか	P4
地震 行動 まずは自分の身を守る <small>(シートC・D)</small>	・危険な場所 【倒れてくるもの／動いてくるもの／落ちてくるもの】 ・地震から身を守る行動	P5
避難 行動 ルールに従い避難する (地震後の火災からの避難) <small>(シートE・F)</small>	・先生の指示に従う ・おはしも 【おさない／はしらない／しゃべらない／もどらない】	P7
津波 行動 できるだけ速くの 高いところへ避難する <small>(シートE・F)</small>	・海や川からできるだけ離れた、高いところに避難する ・間に合わなければ、近くの高い頑丈な建物などの上階へ避難する	P8
風水害 知識 風水害の危険を知る <small>(シートG・H)</small>	・危険な場所 【大雨：川の近く、低い場所、崖や山など土砂災害が起きる危険のあるところ／暴風：飛びそうなものの近く／雷：高い木や鉄塔の近く】 ・避難の方法 【基本は指定緊急避難場所へ／状況により近くの安全な場所へ／緊急時は今の建物の上階へ】	P9
雪害 知識 雪害の危険を知る (大雪) <small>(シートG・H)</small>	・危険な場所 【軒下／道路／除雪車の近く／急斜面／用水路や側溝】 ・雪による事故 【雪崩／除雪作業への巻き込み／路面凍結による転倒や車との接触／雪や氷の落下／用水路や側溝への転落】	P11

教材の使いかた-1

【教材の仕様】

1. サイズ A1サイズシート(十字折り)
2. 枚 数 17枚

【内訳】

① シートA ……1枚(先生用)

表：ふだんのみち(導入)



② シートB ……1枚(先生用)

表：さいがいのおきたまち(導入)



③ シートC ……4枚(先生用1枚、子ども用3枚)

表：じしん① もんだい(地震) 裏：じしん② もんだい(地震)



④ シートD ……1枚(先生用)

表：じしん① こたえ(地震) 裏：じしん② こたえ(地震)



⑤ シートE ……4枚(先生用1枚、子ども用3枚)

表：ひなん もんだい(避難) 裏：つなみ もんだい(津波)



⑥ シートF ……1枚(先生用)

表：ひなん こたえ(避難) 裏：つなみ こたえ(津波)



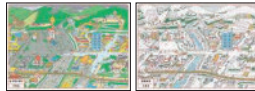
⑦ シートG ……4枚(先生用1枚、子ども用3枚)

表：ふうすいがいもんだい(風水害) 裏：おおゆき もんだい(雪害)



⑧ シートH ……1枚(先生用)

表：ふうすいがいこたえ(風水害) 裏：おおゆき こたえ(雪害)



【シートの選びかた】

実施する時は、実施テーマの「もんだい」と「こたえ」のシートをセットで使います。各シート左下の「タイトル」、右下の「シート名」を確認し、必要なシートをご準備ください。



ココに注目!

タイトル

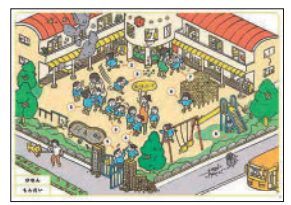
シート名

教材の使いかた-2

【実施方法】 ※この実施方法は一例です。実施しやすいやりかたにアレンジしていただいても構いません。

1. どのテーマを実施するか決め、該当テーマのシートを用意します。

- ・(シートを用意する際の留意点)
- ・1テーマあたり30分程度での実施を想定しています。所要時間や伝えたい内容に合わせていくつかテーマを実施するか検討ください。
- ・少人数から大人数まで、実施パターンは3つあります。やり方によって必要シート数は変わります(ページ下「実施方法の工夫」参照)。



「もんだい」の絵(例)

2. 【もんだい】の絵を見せます。

- ・「自分ごと」として考えてもらうため、子どもたちと以下のようなやりとりをします。
- ・自分たちが住む町と絵の中の町を比べる(自分の住む町と重なる場所を感じ取ってもらう)。
- ・(例)みんなが暮らしている町と、この絵の中の町、同じところはありますか?
- ・絵を見て、これらどんなことが起こりそうか考える(危険を察知する練習をする)。
- ・(例)地震で家具が倒れそうもし倒れたら、どうなるかな?
- ・(例)川が溢れそうこの川が溢れちゃったら、どうなるかな?
- ※地震はもんだい①、②があるのどちらかをお選びください。



「こたえ」の絵(例)

3. 【もんだい】の絵の中の危険なところ(場所・行動)を子どもたちに探してもらいます。

- ・【もんだい】の絵は災害発生直前、もしくは発生中の絵となっているので、この後、町や川がどうなるか予想し、危険なところを答えてもらいます。
- ・子どもたちの回答箇所が付箋を貼る(貼ってもらう)など、進め方を工夫しましょう。

4. 【こたえ】の絵を見せ、答え合わせをします。

- ・本冊子4ページ以降の解説を参考に、もんだいとこたえを横に見比べながら答え合わせをしましょう。
- ※答え以外にも危険な場所が描かれているので、探してみましょ。

【実施方法の工夫】 複数のシートを活用することで、下記3つのパターンに対応できます。

① クラス全員へ一斉実施する

- ・先生：「もんだいシート」と「こたえシート」を木のボード等に貼り実施する。
- ・子ども：肩に貼られた「もんだい」を見て参加する。



② 10人程度のグループに分かれて実施する(最大3グループまで対応)

- ・先生：「もんだいシート」と「こたえシート」をホワイトボード等に貼り実施する。
- ・子ども：「もんだいシート」をグループ毎に床等に置き、それを見て参加する。



③ 4~5人のグループに分かれて実施する

- ・先生：「もんだいシート」と「こたえシート」をホワイトボード等に貼り実施する。
- ・子ども：A3版をダウンロードし必要数を印刷。各組に配布し、それを見て参加する。



A3版データは右のホームページから(無料ダウンロード) → <http://www.jrc.or.jp/activity/youth/prevention/>

導入 災害について知る

【使用するシート】 シートA表「ふだんのまち」
シートB表「さいがいのおきたまち」

【伝える内容】

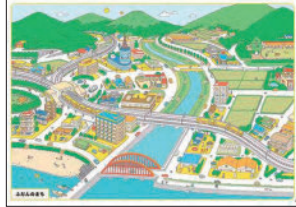
- 災害の種類
- 災害が起こると自分たちの住んでいる町はどうなるのか

【解説ポイント】

「ふだんのまち」、「さいがいのおきたまち」の絵を順番に見せ、下記のポイントを子どもたちに伝えてください。

1. ふだんのまち

絵の中にあるような自然(海、山、川など)が身の周りにあるかどうか聞く。
→ 私たちは、自然と共に暮らしている。
絵の中の人が何をしているか聞く。
→ 「川・海で遊ぶ」、「木や自然の中で遊ぶ」、「田畑で食物を育てている」など、私たちは自然からの恵みを受けて生活している。
→ 自然は災害を引き起こし私たちの暮らしを壊してしまうことがある。でもそれが自然であり、恵みと怖さの両面を知っていることで生きていくという心構えが大切。



2. さいがいのおきたまち

みんなの町が災害に襲われると、絵のような被害が出る(絵の中の災害について説明する)。
→ ひと通りの説明後、「今日はこの中で〇〇について学びましょう」などと伝え、実施テーマの話に移ると効果的です。

<p>地震 地震が大きく揺れて建物を壊したり家具を倒したりする。</p>	<p>火山噴火 火山から高温の火山灰や溶岩などが吹き出し、大きな被害を引き起こす。</p>	<p>土砂災害 雨によって土が崩れたり(がけ崩れ)、大量の石や土砂が流れてきたり(土石流)する。</p>
<p>大雪 積もった雪が大量に崩れ落ちる(雪崩)。</p>		
<p>津波 巨大な波が海から壁のように地上に向かって押し寄せ、人や建物、車を押し流して破壊する。</p>	<p>雷 強い電流が木や建物などに一瞬のうちに落ち、死傷者や火事を引き起こす。</p>	<p>大雨(洪水) 川や用水路から水が溢れ、町が水浸しになる。</p>
<p>暴風 強い風によって看板や屋根などが飛ばされる。</p>		

地震 まずは自分の身を守る①: 場所

【使用するシート】 シートC表「じしん①もんだい」
シートD表「じしん②こたえ」

※「じしん①」と「じしん②」のシートは絵が異なります。ここでは「じしん①もんだい」、「じしん②こたえ」を使います。間違えないようにしましょう。

【伝える内容】

- 危険な場所(倒れてくるもの/動いてくるもの/落ちてくるもの)

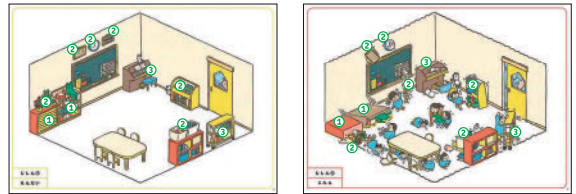
【実施の流れ】

1. 「じしん①もんだい」の絵を見せます。
2. 次のように説明します。
「これは、「ぼうさい幼稚園」。みんなのお友だちが通う幼稚園です。みんなが今いる部屋とこの部屋とで、同じところはありますか?(子どもたちの答えを聞く)そうですね!同じところがたくさんありますね。では、もしみんながこの絵の部屋にいる時に大地震が起こったら、どうしたら良いでしょうか?(子どもたちの答えを聞く)そうですね!その時は、危険な場所からできるだけ離れなければなりません。」
3. 「ではこの部屋の中で、危険な場所を探してみましょう!見つけたら先生に教えてください。」
子どもたちに上記のように伝え、危険な場所についてやりとりをします。(①選んだ箇所、②その理由など)。
4. 答えがひと通り出たら、「じしん②こたえ」の絵を見せます。
5. 問題と答えの絵を見比べながら、下の解説ポイントを、子どもたちに伝えてください。

【解説ポイント】

1. 地震の時、気をつけなければならないのは、「倒れてくるもの」、「落ちてくるもの」、「動いてくるもの」の3つです。地震が起こったら、それからできるだけ離れ、身を守ることを伝えましょう。また、いざという時でも動けるようにするために、ふだんから部屋の中のあるべきところを確認し、どこに逃げれば良いか考えておくことも大事です。

- ① 倒れてくるもの…棚、本棚など
- ② 落ちてくるもの…花瓶、額縁、本、おもちゃ、時計、写真など
※絵にはありませんが、蛍光灯(照明器具)やエアコン(空調機)などに注意することも伝えましょう。
- ③ 動いてくるもの…ピアノ、タイヤが付いた棚、ホワイトボードなど



2. 今回は幼稚園(保育所)の部屋で話しましたが、お家でも同じことに気をつけ、どこに逃げれば良いか家族で話し合っておくことが大切です(部屋の中で家具が倒れて来ない場所はどこか/家の中に家具を置いていない場所はないか→廊下等)。

想像を超える揺れに襲われた時、人は怖くて動けません。そのため、まずは動かなくて大丈夫な安全な環境を作っておくことが大事です。建物内を確認し、「倒れたり動いたりする可能性のある家具は止めどく」、「落ちてくるものを棚の上に置かない」など、対策をしておきましょう。地震後は非常口を確認することも大切です。覚えておきましょう。

地震 まずは自分の身を守る②: 行動

【使用するシート】 シートC裏「じしん②もんだい」
シートD裏「じしん②こたえ」

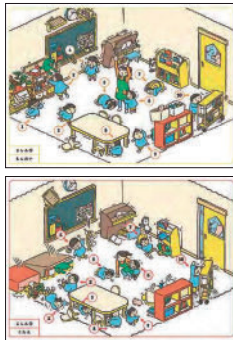
※「じしん①」と「じしん②」のシートは絵が異なります。ここでは「じしん②もんだい」、「じしん②こたえ」を使います。間違えないようにしましょう。

【伝える内容】

- 地震から身を守る行動

【実施の流れ】

1. 「じしん②もんだい」の絵を見せます。
2. 次のように説明します。
「これは、「ぼうさい幼稚園」。みんなのお友だちが通う幼稚園です。あれあれ、大きな地震がグラグラと来たようです。(絵の該当箇所を指し示しながら)あ!家具がぐらぐらして、今にも倒れそう!上に置いているものも落ちそう!みんなそれぞれ自分なりに行動しているようだけど、本当にこれで大丈夫!?
(問を置く)…実は、絵の中にいる10人のお友だちの中に、間違えたこと、つまり、あぶないことをしてしまっているお友だちがいます。それはどの子でしょうか?見つけたら、どの番号の子か、教えてください。」
3. 子どもたちと、あぶないことをしてしまっている子どもについてやりとりします(①選んだ人、②その理由など)。
4. 答えがひと通り出たら、「じしん②こたえ」の絵を見せます。
5. 問題と答えの絵を見比べながら、下の解説ポイントを、子どもたちに伝えてください。



【解説ポイント】

先生が近くにいなくても地震が起こったら、勇気を出して自分で考えて行動できるようにしましょう。

◎ 危険なもの(倒れてくるもの・落ちてくるもの・移動してくるもの)から離れる ◎ 頭や体を守る

<p>1. 怖くて泣いてしまいがち。揺れや物が落ちてくることに気づいていない。</p>	<p>2. 倒れてくる棚を支えようとしているが、重くて変えられないので危険。</p>	<p>3. 倒れてくる棚に近づき、離れようとしている(後者の場合は危険)。</p>	<p>4. 怖くて泣いてしまいがち。上から物が落ちてくることに気づいていない。</p>	<p>5. 倒れかかっている物に当たって、頭を守っている。</p>
<p>6. 泣き止んで先生の足にしがみつき、先生を助けてしまっている。</p>	<p>7. 頭を守っているが、倒れてくる物の前なので危険。</p>	<p>8. 机の下にもぐり足をしかり持つ(机はけいぞうのひざを保護)。</p>	<p>9. 落ちてくる物に気づき、落ちない方に離れようとしている。</p>	<p>10. 動く棚を支えようとしているが、動いてぶつかる可能性が高い。</p>

子どもたちは、基本的には親や先生方に守られている存在ですが、地震が来た直後には、先生方の目や手が届かないことも考えられます。万が一ひとりであるときに命を守るにはどうしたら良いか、子ども自身も気づけるような働きかけをしましょう。地震時は、子どもを守るとともに、非常口を確認することも大事だと覚えておきましょう。

地震 ルールに従い避難する(地震後の火災などの避難)

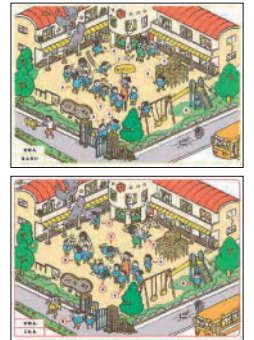
【使用するシート】 シートE表「ひなんもんだい」
シートF表「ひなんこたえ」

【伝える内容】

- 先生の指示に従う ● おはしも(おさない・はしらない・しゃべらない・もどらない)

【実施の流れ】

1. 「ひなんもんだい」の絵を見せます。
2. 次のように説明します。
「これは、「ぼうさい幼稚園」。みんなのお友だちが通う幼稚園です。何が起きているのか、ちょっと様子を見てみましょう。門がこわれたり、建物から煙が出ていたりしています。また、先生が「あつまつてー!」と声を掛けていますね。この絵は、地震のあと火災が発生し、みんなが廊下に避難してきている場面です。あれ?ちょっと心配な行動を取っている子どもがいますね。あの子たち、大丈夫かなあ?
(問を置く)…実は、絵の中にいるお友だちの中に、間違えたこと、つまり、あぶないことをしてしまっているお友だちがいます。それはどの子でしょうか?見つけたら、どの番号の子か、教えてください。」
3. 子どもたちと、あぶないことをしてしまっている子どもについてやりとりします(①選んだ人、②その理由など)。
4. 答えがひと通り出たら、「ひなんこたえ」の絵を見せます。
5. 問題と答えの絵を見比べながら、下の解説ポイントを、子どもたちに伝えてください。



【解説ポイント】

避難の時に大事なことは、ルールに従って行動することです。勝手に行動してしまうと、みんなとはぐれたり遅れられたりしてしまい、危険です。

◎ おはしも(おさない・はしらない・しゃべらない・もどらない) ◎ 先生の指示に従う

<p>1. お気に入りのおもちゃを背中に抱き、煙をさばせました。</p>	<p>2. 気持ちが焦り、前の子どもを押して転倒させました。</p>	<p>3. 列には加わらず、走って前の方に行動して、転倒させました。</p>	<p>4. 煙から身を守るため、ハンカチで口をおさえ、落ちないように避難しています。</p>	<p>5. おしゃべりして言い合いになり、後ろの人が遅くなった。</p>
<p>6. 廊下で遊んでいたが、先生の指示に従わず、そばで集合した。</p>	<p>7. 怖くて泣いてしまいがち。先生の言うことを聞かず、急な目に撞いた。</p>	<p>8. 避難の下で寝ておぼろげに寝ていて、はぐれてしまった。</p>	<p>9. 勝手な判断で門から外に出ようとして、はぐれてしまった。</p>	

避難の際は、先生の指示に従って行動することが原則となります。子どもたちは、「お・は・し・も」などのルールの他、「先生の話聞く」こともしっかり伝えましょう。また、普段から避難経路等を確認し、いざという時あわてないよう準備をしておきましょう。先生としては、子どもたちへの対処のほか、初期消火等も忘れずに行いましょう。

参考・引用文献 等

- 「生きる力」をはぐくむ学校での安全教育（文部科学省）
- 小・中・高等学校及び特別支援学校学習指導要領、解説（文部科学省）
- 「東日本大震災を受けた防災教育・防災管理等に関する有識者会議」中間とりまとめ・最終報告（東日本大震災を受けた防災教育・防災管理等に関する有識者会議）
- 災害教訓伝承の手引き、ものがたり 理兵衛堤防（国土交通省天竜川上流河川事務所）
- 防災ハンドブック（長野県）
- 長野県災害体験集（長野県危機管理室）
- 理兵衛堤防（中川村教育委員会）
- 伊那谷の災害を訪ねて（三六災害50年実行委員会）
- 浅間大焼（浅間縄文ミュージアム）
- 地震による土砂災害の教訓を継承し、現代に活かす（シンポジウム実行委員会）
- 公民館報さかえ 第198号（栄村公民館）
- 西穂高岳落雷遭難事故調査報告書（松本深志高校）
- 山と雪の墓標（春日俊吉）
- 持続可能な社会をつくる防災教育（協同出版 藤岡達也 編著）
- 災害文化と伝承－長野県小谷村の土泥石流災害と伝説－（『京都大学防災研究所年報第41号 B-2』 笹本正治）
- 写真記録「長野県の災害」（郷土出版社）
- 学校教育活動全体での防災教育の充実と推進（初等教育技術（10月号）東洋出版社 戸田芳雄）
- 一般財団法人消防科学総合センター災害写真データベース
- 小林朋子・中垣真通・吉永弥生・今木久子・長島康之・石川令子（2010）支援者のための災害後のこころのケアハンドブック（静岡大学防災総合センター）
- 仁科良夫・松島信幸・赤羽貞幸・小坂共栄（1986）長野県の活断層－活断層分布図と資料－，信州大学理学部紀要20（2）：171-198
- 小池則満，森田匡俊，橋本操：
大型商業施設への避難を組み込んだ洪水タイムライン策定に関する実践研究～豊田市立元城小学校を事例として～，土木学会論文集D3（土木計画学），Vol.75，No.6，I_101-I_108，2020.

協力、資料・写真提供 等

【協力】

信州大学教育学部
長野県伊那建設事務所
長野市立豊野中学校
長野市立豊野西小学校
山ノ内町立西小学校
長野県諏訪養護学校

長野県建設部砂防課
長野県北信建設事務所
長野市立加茂小学校
白馬村立白馬中学校
長野県須坂高等学校
長野県木曾養護学校

長野県佐久建設事務所
日本赤十字社長野県支部
長野市立清野小学校
小谷村立小谷小学校
愛知県豊田市立元城小学校
長野県上田養護学校

【資料・写真提供等】

気象庁
国土交通省
長野市教育委員会
白馬村教育委員会
長野県松本深志高等学校
天竜川総合学習館かわらんべ
長野県危機管理部危機管理防災課
長野市総務部危機管理防災課
長野県体育センター

長野地方気象台
千曲川河川事務所
中野市教育委員会
栄村教育委員会
嬭恋村郷土資料館
浅間縄文ミュージアム
長野県環境部自然保護課
南アルプス（中央構造線エリア）ジオパーク協議会
美斉津 洋夫 氏（小諸市）

神戸市行財政局行政監察部
小諸市商工観光課
中川村教育委員会
岡谷市教育委員会
信州・長野県観光協会
真田宝物館
南木曾町

「学校における防災教育の手引き」＜改訂版＞ 作成協力者

※職名は令和3年2月現在

藤岡達也	滋賀大学大学院教育学研究科	教授
榊原保志	信州大学教育学部	特任教授
廣内大助	信州大学教育学部	教授
島田英昭	信州大学教育学部	教授
本間喜子	信州大学学術研究・産学官連携推進機構	助教
白神晃子	立正大学社会福祉学部	専任講師
大橋勇治	気象庁長野地方气象台	次長
小林卓生	国土交通省北陸地方整備局千曲川河川事務所	防災情報課長
小柳由佳	日本赤十字社長野県支部組織振興課	課長補佐
熊谷剛志	長野県危機管理部危機管理防災課	主任
河野義隆	長野県建設部砂防課調査管理係	担当係長
須山千才	長野県中野市立高社中学校	教頭

「学校における防災教育の手引き」＜改訂版＞
令和2年度 学校安全総合支援事業

発行年月 令和3年2月

発行者 長野県教育委員会

〒 380-8570

長野県長野市南長野幅下 692-2

TEL 026-232-0111

